

## 「技術士にとって、発明と事業化は不得意分野？」

### 1. 社会への出発早々の危機（病との闘い）

誰でも波乱万丈の人生があると思いますが、私も振り返ってみると数え切れないほどの危機を乗り越えてきたように思います。その中で、特に人生を左右する出来事を中心に書いてみたくなりました。

入社1年足らずで、労働組合の役員をやり、解雇される危険な道に入り込んでしまいました。仕事には全く興味が持てず、組合活動に生きがいを感じてしまったからです。

しかし、それだけなら何とか切り抜ける可能性があったのですが、積極的に組合活動を始めて早々、原因不明の病気にかかってしまったのです。不思議な病気で、人からは頑強な体で、健康に見えているのに度々休み、仕事ができない人と思われていました。しかし、現実には微熱が続き、その時担当していた設計業務を遂行できないほど頭が働かず、力も入らず、人から借りた軽自動車を運転して、ブレーキに力が入らず、止まっていた新車のクラウンに衝突させる事故を起こしてしまいました。当時、貯金も僅かで、絶望的な状況に追い込まれました。その時所属していたプロジェクトの先輩が、間に入って来て、私を救ってくれました。その後も人生の恩人として、長くお付き合いすることができました。この原因不明の病気が、その後の人生に良い影響を与えてくれました。

病気が悪化して、設計を首になり、たらい回しにあったどの職場でも、まともに仕事ができず、体はやせ細り、死を覚悟するほど衰弱してしまいましたが、会社を辞めれば、2度と再就職できないことを自覚していたので、組合役員を辞め、会社にしがみつきました。それでもきわめて潔癖症で、正義感が強く、ゴマ化して生きることはできませんでした。ある日、結婚式に招かれて、テーブルの前に座った親戚の人に自分の症状を説明するとある病名を言い当てました。その後、男では、世の中で滅多に発生しない甲状腺関連の病気であることが分かり、名古屋大学病院で、治療を受けることで、1年余りで、正常に回復しました。頭の中が霧が晴れるようにすっきりとして、体力も戻り、3年も遠ざかっていたにもかかわらず、柔道場で、どこで練習していたんだ？と言われる位、体力が戻りました。病気の経験で、おごり高ぶっていた傲慢な性格も引っ込み、人の考えていることが、理解できるようになり、さらに自分でも自覚していなかったある能力が加わりました。それが発明です。

### 2. 世の中で、初めてを目指す

[ 日本技術士会岐阜支部 会報の情報連絡先 ]

〒509-0109 各務原市テクノプラザ 1-1 本館5F

TEL : 0583-79-0580 FAX : 0583-85-4316 Email : gcea9901@ybb.ne.jp

入社5年まで、何一つ取り柄もなく、組合活動で、危険視され、同期の中で、収入も最低でしたが、病気が回復してから、発明や、開発、内外の技術的トラブルの解決では、切れ目なく成果を出し続けられるようになりました。

上司から依頼されて、特許を取った自動刃先計測装置は、社内での標準ユニットとなるだけでなく、旋盤の要素技術の世界スタンダードになりました。またその時、日本で始まったマシニングセンターの開発では、ユニット生産システムの企画を提唱し、製品の品質を飛躍的に向上させ、製造リードタイムを1/3まで短縮する量産体制を実現しました。その後、退社した後に他社の大手工作機械メーカーの工場を見学して、私のやり方を取り入れていると思われるものでした。入社して、15年間、表舞台で、日の目を見なかったのですが、ドイツのある大手印刷メーカーが当社の複合旋盤に着目し、13台システム機のプロジェクトの引き合いで、1台1年間テスト導入にこじつけましたが、僅か1か月の試験でNGとなりました。顧客から、1回だけチャンスを与えると通告され、役員の中で、ただ一人自分を評価している人の推薦で、米国で行われていたグループ国際会議場からFAXが入り、改造、再試験の責任者に抜擢され、即座に現地に飛び、3か月滞在して対策することで、逆転に成功しました。その後、自分は、設計部署でも生産技術部門でもないのに稟議書を申請するといくらでも予算を出してくれたので、次々に新しい技術を開発し、商品化することに成功するようになりました。しかし、所属した組織は、そうした能力や貢献を高く評価しないことも知りました。26年間働いたにも関わらず、課長どまりでした。品質保証部門で、50名以上の部下を持ち、700名の工場全体のマネジメントも補佐してきましたが、会社役員には、私にはない別の能力が求められていました。そこで限界を感じ、40代で、会社を飛び出し、一人でメーカーを目指すことにしたのです。目的は、会社でなく、社会に評価してもらいたいと考えたのです。

### 3. 独立のリスクと価値

事業化を目指して、友人と協力して、開発をした製品のカタログを上司の役員に見せたところ、発明と事業化とは違う。成功の可能性は限りなくゼロだと言われました。妻からは、両親を使って、必死に独立はやめてくれと説得に当たりましたが、振り切りました。実は技術士試験には、簡単に合格していません。現役時代、2回目の挑戦で、筆記試験に合格したのですが、面接で、専門技術の知識が無い試験官に当たり、意見の対立で、落とされた経験があります。技術士試験内容を見て、技術士は、世界に類のないものを発明し、事業化する能力を有していなければならないと考えていました。実は、独立して、最初に発明した製品は、1台も売れませんでした。次の開発資金を捻出するために、全国版の投資銀行の商品開発応募で、トップ入賞して、現金300万円を受け取ったこともあります。一方、独立して、3件目の発明した製品が初めて売れました。日刊工業新聞で、発明賞にノミネートされ、それが切っ掛けで、その当時名古屋大学のロボット工学で、脚光を浴びて

いた先生との AI 機能製品の共同研究も行うことができました。しかし商品化に成功しても、ベンチャー企業の製品を顧客が、採用するほど世間は甘くありませんでした。当面コンサルタントで、稼ごうと技術士試験に再挑戦して、やっと合格しました。しかし、技術士になって、20 年以上になりますが、技術士の発明家には、ほとんど出会うことはできませんでした。

世の中を振り返ると松下幸之助氏も本田宗一郎氏もインスタントラーメンを発明した安藤百福氏も単なる発明家ではありませんでした。同時に偉大な事業家でなくては、一人で出発して、成功など収めることはできません。世の中の特許を調べると、発明した人は、ほとんど事業化には成功していないことに気がきます。その後別の企業が改めて事業化しているのです。3D プリンターを最初に発明した人は、名古屋の弁理士で、講演を聞く機会がありましたが、発明に対するこだわりもなく、事業化の目的意識もなく、3D プリンターの走りを単に特許化しただけでした。残念ながら、隙だらけの特許で、成功のプロセスは構築されていませんでした。

また弁理士の友人からは、特許は大企業のもので、ベンチャー企業のものではないとも言われ、絶交しましたが、事実だと思います。

3 番目に発明したものは、その後どうなったかと言いますと事業として継続し、市場に 1 万台出荷するまでに成長し、長い事業継続により、世間の信用も増しました。特許としての優位性は発揮できませんでしたが、次の後継者に事業を引き継ぎ、特許に頼らない技術探求と独自性をさらに特化した 3 世代目の開発をほぼ完了しました。

発売を開始して、20 年、未だに大手メーカーが類似品開発のために当社の製品を調査しているようですが、今後は、調べても同じものは開発できない領域に入ったと考えています。今年の新型コロナウイルス感染で、改めて認識したことがあります。予測できない非常事態で、売上が激減した時、運よく固定費を最小化して事業継続ができ、リスク回避できました。結果的に非常事態は、次の飛躍の準備時間を得るチャンスとなりました。

自分も含めて、技術士には、軽い発達障害がある人が多いような気がします。社会に出て、直ぐ困難に遭遇したことで、コミュニケーション力が付き、多くの方の助けと協力により、運にも助けられて、また、障害をカバーできたからこそ現在の自分があるのだと自覚しています。

#### 4. 偶然の事業継承

人生も 73 才と最終章に入っていますが、その自覚はまだありません。親はサラリーマンを 55 才で定年した後、70 才で、脳こうそくを発症し、痴ほうを患いながら、86 歳まで人生を全うしました。自分にもある遺伝的欠陥も克服する努力に努め、60 才台の体力と社会に繋がった仕事も継続できています。でも引退等何らかの自覚を則す変化があれば、いつでも身を引く覚悟はできています。

私は、独立した時は、1代限りとしか考えていませんでしたし、持続性のある事業まで育つとも思っていませんでした。

今は、子供達に事業を継承し、家族全体で、事業を継続する羽目になりました。

<https://www.mc-giken.com/>